

め た せ こ い あ

「寛容性ランキング最下位の今こそ挑戦を～吉賀町から始める変革の一步」

校長 河井 俊彦

先日、ある全国調査で、島根県が“寛容性都道府県ランキング最下位”という結果を目にしました。率直に、胸にグサッと刺さる数字です。しかし、私はこうも思いました。「最下位」は恥ではなく、“ここから変われる余白が一番ある”ということだと。

吉賀町で生徒と向き合っていると、子どもたちが地元の方とのちょっとした関わりに救われている姿を何度も見かけます。挨拶を返してもらっただけで、その日の表情が明るくなる。総合的な探究の時間、いわゆるアントレで出会った地域の方からの「がんばりんさいよ」という一言で、気持ちが前向きになる。つまり、土台は決して悪くない。数字に表れない「ぬくもり」は確かに存在しているのです。

とはいえ、若者が「また帰りたい」と思うふるさとになるためには、もう一步、私たち大人の姿勢が問われています。たとえば、ちょっとした「よそ者のアイデア」を面白がってみる。世代の違う子どもたちの挑戦を、まずは否定せずに聞いてみる。外から来た人にも、昔からいる人にも、同じように肩の力を抜いて接してみる。そんな一つひとつの行動が、ランキングを動かす前に、若者の心を動かします。

吉賀高校としても、地域と一緒にこの「寛容力」を育てていきたいと思えます。失敗する生徒を笑うことなく、挑戦する生徒の背中を押し、帰ってきた卒業生には「よく帰ったね」と声をかける。そうした小さな積み重ねこそ、学校と地域を結ぶ最大の力です。

先日の東京吉賀会には、町内卒業生はもちろん地域みらい留学卒業生も参加し、吉賀を誇り感謝を語る立派な若者に成長していました。

ランキング最下位からのスタートは、ある意味でおいしい立ち位置です。これからの伸びしろを全国で一番持っているのですから。

吉賀町から、「寛容な島根」の反転攻勢を始めませんか。

未来の若者が胸を張って言える——「自分が育ったふるさと吉賀町は、懐が深い町だ」と。

第9回東京吉賀会 総会&懇親会



1 ロードレース大会

11月10日(月)に全校生を対象としたロードレース大会を行いました。秋晴れの空の下、男子5キロメートル、女子4キロメートルを快走しました。

大会結果

男子1位 守田陸人さん 20分56秒 女子1位 松本鈴華さん 19分45秒
(昨年度1位も守田さんでした。)

男子1位 守田陸人さん(3年)の感想
「わっしょい!」と叫びたくなるくらい、とても楽しく走れました。

女子1位 松本鈴華さん(2年)の感想
1位になれたのは初めてでした。とてもうれしかったです。



2

カーボンニュートラル2050

12月4日(木) 2~4限に多目的教室にてカードゲーム『カーボンニュートラル2050』に1年生と教員が参加しました。講師のよしやちかし 榎矢崇司さん(公益財団法人しまね自然と環境財団)に、2050年のわたしたちの日本がどうなっているかをシミュレーションするロールプレイング型カードゲームを教えていただき、二酸化炭素の排出を抑えることや自然環境保全のためにすべきことを企業、個人の両面から考えました。



生徒の感想

自分の知らなかった世界を知ることができて良い体験となりました。ゲーム方式で可視化することで、少人数でも皆で確認しながら楽しめました。

3

校内球技大会

12月9日(火)に2学期球技大会(バスケットボール)を開催しました。級友の熱い応援を受けて奮起する生徒たちでした。優勝は男子の部2年A、女子の部は3年Aでした。



4

薬物乱用防止教室

12月4日(木)5限に3年生を対象とした薬物乱用防止教室を実施しました。浜田警察署の方から薬物の危険性や恐ろしさを教えていただきました。

生徒の感想

これから地元を離れるので気を付けたいです。身近な先輩から誘われても拒否したいと強く思いました。市販薬の飲みすぎも危険だと知りました。

